

*****目次*****

- P1 今号の TOPICS 堀内信彦
 P2 仲間たちの近況報告 (1)
 1班 曾我千津子
 2班 和田光子
 P3 仲間たちの近況報告 (2)
 3班 田中悦朗
 4班 永野 徹
 P4 仲間たちの近況報告 (3)
 5班 坪井都子
 6班 水谷夏子
 P5 私の玉手箱 畑寿々子
 P6 樹形ウォッチング遊上真一
 P7 リレー随筆 米村倭文子
 写真コーナー 水谷夏子
 俳句コーナー 風の子
 谷坂修二

◇自然と文化だより◇

27号に投稿いただいた皆様、有難うございました。

今号のトピックスは自然と文化科のメンバーが中心として活動を始めたサークル「交野自然の杜クラブ」を紹介していただきました。また、ボランティア活動などについて「仲間たちの近況報告」や「私の玉手箱」に投稿していただきました。

社会に役立つシニアであることを目指して活動されていることが参考になると思います。

今年も押し詰まってきましたが、2016年もよろしくお願いします。

K.Nomu



今号の TOPICS

自然と文化科が原点です

交野自然の杜クラブ 代表 堀内 信彦 (5班)

今年9月シニア自然大学校に「交野自然の杜クラブ」“見て観て歩こう会”をサークル登録しました。活動の内容を少し紹介してみたいと思います。

2年前、武田尾植物観察の帰り電車の中で自然大好き、交野大好き女性3人組+でクラブを立ち上げました。身近な交野には自然がいっぱい残っているね。この自然を残し、後世にこの美しさを伝えようよ。小さい市で大いなる野望です。

会員数も、シニア自然大学校の卒業生を中心に20名を超えました。「楽しく」「明るく」「仲良く」見て、そして観て「少し学ぶ」「ワイワイ」がモットーの集まりです。

月1回の例会、交野の山や近郊のハイキングコースを中心に草、木、鳥の観察会や街歩きを、たまにバーナーで湯を沸かしたコーヒーが出ます。今年「交野花ごよみ調査」のコースを決め、始めました。結構議論しながら楽しく、一つの暦ができそうです。

その他に、年2回小学3年生対象の校庭の観察会。子どもたちが自然に接し、少しでも自然が好きになってもらえればと思います。

また、交野市とタイアップした、年4回の一般市民を対象とする観察会開催と講師派遣。この10月の観察会には交野市内外から40人以上の参加がありファンも出来そう、来年度はもう少し回数を増やそうか、思案中です。

まだ始まったばかり、いろいろ試行錯誤しながら楽しくやろうと思っています。皆さん是非一度覗いてみて下さい。



例会の観察風景



校庭の観察会



イワナシの花



リース作り

非日常を求めて

1 班 曾我 千津子

非日常を味わうには旅行がいい。それには海外旅行がいちばんだと思う。異国の街を行きかう人々、言葉、建物、街並みが、より日常を遠いものにしてくれる。

退職後、元気なうちにと、友人たちと誘い合わせ出かけているが、旅に出るわくわく感より、年々大層になっているのが荷造りである。そろそろ準備を、と思っていても、なかなか取りかかれない。

荷造りを厄介と思いながらも、旅はこの時からすでに始まっているのかもしれない。

11月に行ったユーラシア大陸の最果てポルトガルは、日本とは古くから馴染みのある国。歴史で習った種子島の鉄砲伝来、バスコダガマやマゼラン。カルタ、カステラ、コンペイトウなどもここから伝わったことはよく知られている。

しかし、渡って来たものは知っていたが、渡って行った人のことは知らなかった。ポートワインの産地ポルトからバスで2時間、世界遺産の図書館があるコインブラ大学を見学したとき、ガイドの説明から、1553年にポルトガルへ入国した日本人がいたことを知った。薩摩の下級武士田中ベルナルド。彼は日本人初のヨーロッパ留学生として、イエズス会の修道士となり学んでいたが、4年後、病気のため亡くなり、大学の教会に埋葬されている。

他国とはちがう親しみを感じるポルトガルへは、途中イスタンブールで乗り継ぐが、約17時間は飛行機の中、日本からはとても遠い国だということがよく分かった。はるか戦国時代、どれくらいの日数がかかったのだろう。

深夜、関空を飛び立ってしばらくすると食事が出てくる。普段こんな時間にご飯なんか食べる？と言いながら、いじましくも食べる。

やはり海外旅行はちがう、離陸からわずか3時間、早やくも真夜中の食事という非日常を味わっている。



リスボン・ロカ岬「最西端到着証明書」€11

落語の平林の一節

2 班 和田 光子

文章力もなく、話題も少ないので何を書けばよいかわどむところですが、自然と文化に入れていただいて8か月が経ち、学ぶことが多々あり、また観察会や歴史探索は楽しくて、それ以上に班の皆さんに何かと可愛がっていただき、日頃の感謝の気持ちを込めてこの機会にお礼申し上げます。

金剛山バスツアーの行きのバスの中でのちょっとしたエピソードを書かせていただきます。隣になった方がふとしたことで、子供の頃に覚えたリズムのある遊び言葉のような漢字を思い出し、言い出しました。それは完成形ではなく、薄ら覚えの歌のようでした。私は初めて聞くので何のことかと思っていましたら、通路を隔てた隣の席やら後ろの席の4〜5人の方が次々と思い出されて、完成していきました。その歌は「たいらばやし、ひらりんか、いちちじゅうのもーくもく、ひとつとやっつととっききき！」と次第に完成されていくのを聞きながら、リズムの良さもさることながら、バスに乗り合わせた方はさすがシニア自然の高等科を終了された方々で、レベルの高さに脱帽しました。落語の＜平林＞の中の一節だそうです。この一節を聞き、英語で訳したら、どうなるのかなあ？この日本語の持つリズム感と面白さが表現できるのだろうか？などと思ってしまいました。山頂に向かう寿司詰めのロープウェイの中で、この一節を知っているか聞いたところ、60歳前後の人は初めて聞くと答え、70歳前後の人は落語の一節だよと教えてくださいました。勝手に判断したのですが、ラジオとテレビ世代の違いでしょうか？ただ私の無知だったからかもしれませんが。ネットで調べたのですが、原話は、安楽庵策伝が寛永5年（1628）に出版した笑話本『醒睡笑』の一遍である「推はちがうた」。

江戸時代の初めにこんなに豊かな表現ができたのかと感心し、日本人の持つ感性に称賛を贈りたい、誇りに思うと同時に、今まで知らなかったことで娘たちにも伝えられていない自分を恥じてしまいました。

バスの中の小さな話でしたが、講座以外でも学ぶことがたくさんあり、楽しいツアーとなりました。最後に今後ともよろしくお願いします。

気になっていたことがすっきり

3 班 田中 悦朗

あまり通らない近くの緑地道を自転車で通った時、直径 8 cm ぐらいの樹皮が剥げた植樹を見て気になった。サルスベリ？ナツツバキ？リョウブ？葉を手にとって見てみると「これは常緑樹だ、ちゃうな、まだまだ知らん木もあるな。」そのまま通り去って、忘れていた。箕面“花ごよみ”で、リンボクやホソバタブの葉を丹念に見ていた。リンボクは鋭い鋸歯があるものもある。そしてバラ科バクチノキ属で常緑だ。帰ってから図鑑で調べていると同じ属

にバクチノキがあった。「あっそうか！あの時のあれは。」そして秋になり、あらためて現場検証すると、その木はブラシ状の総状花序を付けていた。**すっきり**



バクチノキ



もはや趣味となった野山での植物観察。やたらヤブガラシによく出会う。薄緑・橙・ピンクの粒がまばらにあるがこれは花である。この世界に入って、ヤブガラシの花を 100 以上は観ただろう。しかし果実を見たことがない。先月、ある観察会が道場であつたので参加させてもらった。そこにあるではないか、ヤブガラシが緑色～黒色の実を付けて至るところに。講師曰く、「普通ヤブガラシは3倍体、ここのはなぜか2倍体で結実するのだ。」**すこしすっきり** いやいや種無しなのに、こんなにはびこるのはどうして？複葉だが鳥足状でないものもある？これくらいにしとこ、以上。



ヤブガラシの花



ヤブガラシの実

“南九州めぐり（日向神話のふる里）”

4 班 永野 徹

1) はじめに

今年 5 月「日向神話のふる里（南九州）」を 3 泊 4 日で歴史探索。

2) 第 1 日(初日)

伊丹から熊本への飛行機は懐かしいプロペラ機で阿蘇上空を福岡側に迂回して、30分遅れで熊本空港に到着。レンタカーで阿蘇山を遠くに見ながら、天孫降臨で有名な高千穂に到着。癒しの高千穂峡を堪能しながら、夜は外国人も一緒に夜神楽を鑑賞。本番は11月～2月に徹夜で行われる国宝級の神事である。

3) 第 2 日

まず神武東征の起点・美々津港を訪れ、その後九州最大の「西都原・生目古墳群」を見学し、神武誕生伝承が残る狭野神社と、もう一つの天孫降臨伝承地である霧島東神社・霧島神社を参拝。霧島は大分と同じく湯煙の立つ温泉郷で、鹿児島湾を見下ろし遠く桜島を望む。



夜神楽(高千穂)



桜島噴火

4. 第 3 日

早朝の TV ニュースで桜島噴火を知る。南さつま市の加世田教育委員会を訪れ、「二二ギ尊の笠沙宮」に係る情報を得て、王子達（海幸彦・山幸彦）を祭る竹屋神社を訪問し、二二ギ上陸伝承が残る野間半島を一周。鑑真の上陸地・坊津記念館を見学後、枕崎を経由して、開聞岳と池田湖の間にある「竜宮伝説」の残る牧間神社と玉の井を探訪。指宿ホテルでは砂風呂を体験したが低温火傷を負う。

5. 第 4 日(最終日)

鹿児島市内の城山・仙巖園を見学しながら桜島の水蒸気噴火を目前にした。仙巖園入口で世界遺産申請中の尚古集成館を見学。最後に鹿児島空港へ向かう途中、始良八幡神社に立ち寄り、日本一の蒲生大楠（樹齢 1500 年、幹回り 24m を拝顔して、英気を養う。



日本一大楠(蒲生)

楽しい4日間を満喫した。

「春日山原始林」を未来へつなぐには？

5班 坪井 都子

奈良はシカと歴史だけでなく、世界文化遺産「春日山原始林」があります。

奈良の市街地から東方をみると、なだらかで美しい山の稜線が見えます。それが「春日山原始林」です。手前に濃い緑の



円錐形の少し低い山が見えます。この山は「御蓋山みかさやま」で春日大社のご神体です。その後方に連なる春日山も全て神の山として神聖

視されてきました。841年には「狩猟伐採禁止令」が出され、以来1100年余、春日山は原始林として保たれてきました。

♡「春日山原始林」の現状は？

この原始林はシイ・カシといった照葉樹の豊かな森で、1955年「特別天然記念物」に指定され、また長い間人の手で守られてきたということで1999年には「世界文化遺産」に登録されました。ところがこの照葉樹林に異変が起こっています。シイ・カシが枯れていき、その幼樹も育たなくなっているのです。それはカシノナガキクイムシが木に入り込み、シカが実生や幼樹を食べているという状況からでした。その中でシカの嗜好植物であるナギとナンキンハゼが異常に繁茂していています。このままでいくと数百年後には、春日原始林は照葉樹のないナギとナンキンハゼだけのただの林になっていくだろうと、研究者たちも指摘しています。

♡「春日山原始林」のこれからは？

ここ10年来の春日山の異変状況を肌で感じていた私たち市民団体も、研究者も県行政も三位一体での取り組みの必要だと考え、昨年2014年7月「春日山原始林を未来へつなぐ会」を立ち上げました。「つなぐ会」では、春日山原始林の保全として①カシナガ捕獲のトラップ設置 ②防鹿柵の点検と補強柵設置への県への働きかけ ③ナギの試験的数量調整に取り組んでいます。そしてこの状況を皆さんに知っていただくため普及啓発として研修会や観察会等も実施しているのです。

・・・大和はうるわし、大和は国のまほろば・・・

ーこんなボランティアもー「葉っぱの教室」

6班 水谷 夏子

2011年、姉が自宅で入浴中に亡くなった。69歳の若さで、当日まで元気に特別養護老人ホーム（特養）に入所中の母の世話や展覧会に出展する絵の制作に励んでいた。わたしは姉の突然の死をなかなか受け入れられない年月を過ごした。

今年の秋も紅葉した木々の葉は山を彩り、山道を歩く足元にもミジやイチヨウの葉を見つけると思い出される事がある。入所中の母にわたしは、よく紅葉した葉をお土産に持っていき、紙の上に並べて、外出ままだらない母に少しでも秋の色を楽しんでもらっていたのだ。

この事がきっかけになり、姉の薦めもあり、特養での「葉っぱの教室」が始まった。ほとんどの方は歩行困難で対話が少なく車椅子生活だった。当然ながら室内が日常生活の場となり、外出は少なかった。わたしは、四季に応じた草花、葉、実をできるだけ沢山用意して訪れた。

秋にはミジやイチヨウ等の紅葉した葉をテーブルの上にいっぱい並べると、入所中の方々は「まあー」「きれいー」と声に出される。それらを紙に思い思いに並べて楽しんでもらい、作品にした。わたしは「これは何の葉ですか。」とイチヨウの葉を取って尋ねると「イチヨウだよ。」「御堂筋の並木にある。」と老紳士。各自、昔の記憶が蘇り懐かしそうにされる。また、重度の方には、赤いピラカンサスの実を手手にのせてあげると、眠ったような瞼が開き、生氣ある目が輝いた。

春には、ヤマブキの花を用意していくと、「うちの庭にも咲いていた。」そして、ヤマブキの花に因んだ太田道灌の話から「七重、八重・・・」とあの有名な歌がスラスラと出てくる女性は、車椅子生活である。小学生の時、教科書で学んだそうだ。

今、野外での観察会は自分の足で歩ける元気な人ばかりの参加である。しかし、こうした外出困難な方々には、自然に触れる機会が少ない。施設にもそんな余裕がない。季節感のある植物に触れることは、脳を刺激するのであろうか、生き生きとした表情となり、過去の体験や記憶を蘇らせる力がある様に思えた。この「葉っぱの教室」は姉の死とその後、白寿を全うした母の死で終わってしまった。秋も深まり山々が彩られ、鮮やかさを増す頃をまた迎えた。「葉っぱの教室」を再開したらと姉がささやいている様な気がする。（葉っぱの教室の写真は7ページに掲載しています）

今！ 地域で助け合おう活動 「ご近所さん」

2班 畑 寿々子

日本の総人口が1億2686万人、高齢者はこの内昨年より89万人増えて、26.7%で1/4超え、80歳以上は1千万人超えて総人口の1割。25年後平成52年（私が92歳）には高齢者は36.1% 1/3を超え3人に一人は高齢者と言う予測事実で、因みに今認知症462万人＋予備軍MCI 400万人と言う数字が上がっています。もはや子供達若い人を当てに出来る状態ではなくなります。行政もこの高齢者数には満足な介護手段が間に合わない状況になるでしょう。老老介護が出来たらまだ良いのですが、一人残った方は・・・大変。

健康寿命を伸ばす必要があります。そして互助力の活動、活躍の場が必要です。私たち自然大学の者はアクティブシニアで健康的ですが、暇を持て余してモンスターペアレントのようなシルバーモンスターが増えてきていると聞きます。

しかし恐れる老後ばかりではありません。有名な生活評論家の吉沢久子さんは91歳の時より96歳のMRI検査の結果がよく、脳機能が上がっていて、新聞を読む、調理する、執筆活動等で脳を鍛えているそうです。そして社会参加が認知症を遅らせる事は、もはや周知の事実です。（ためしてガッテン・チョイス・今日の健康などの報道。）運動機能においても認知症回復においても社会参加は必要だそうです。社会参加は、運動と頭を使い、人さまの役に立って喜ばれるので心はウキウキですね、それがまた良いのです。

そこで私たちは助け合いの会有償ボランティア「ご近所さん」を2010年に細々と手探りではありますが、立ち上げました。私たちが手助けを欲しい時に、すぐに助けてもらえるシステム作りが、今のうちに必要です。今私たちが動ける間に、このシステムを私たちの地域に根付かせておかなくてはならないのです。今です！今でなかったら間に合わないのです。西宮南地域・尼崎ナニワ（南）地域・尼崎潮江（西）地域・尼崎立花（中）地域と、1～2年毎に狭い地域ですが、活動拠点を作って活動が進んでいます。

無償ですと、「やっぱりそれくらいは自分でしたら？」とか、「無料ならこれもこれも頼もう」とか、御礼におまんじゅうを用意しなくてはとか、問

題が多く、長続きするシステムにはならない事が、経験的に有りましたので、半分有償半分ボランティアという事で、10分100円利用者さんからいただいて、支援者は80円手にして半分ボランティアと言うシステムにし、差額は事務所費に充てています。僅かな金額で真心サポートをしています。保険にも入っていますので、活動前後のトラブルにも対応しています。コーディネーター・ボランティアも立ち上げ、半年前にはしっかり勉強会を開いて、看護師・ヘルパー・ケアマネ等からサポートを常に得ています。

利用者からの依頼は。介護保険ではして貰えない作業、介護保険の単位のオーバー分の依頼などが殆どです。それは掃除、買物、調理、小犬の散歩、マンションのゴミ出し、繕い、通院介助。また急な骨折で介護保険認定に及ばない時などにも対応できています。そして目的は高齢者対応でしたが、少子化支援でも依頼が来て、早出出勤の時の幼稚園送迎、通学途上の交差点旗振り見守り等もありました。喜んでいただけるのが何よりうれしいとボランティアは言っています。

ボランティアがたくさんいれば個人の負担は少なく、二人で作業する事も出来ます。都合が悪ければ、いつでも交替出来る体制を作れます。

コーディネーターは、事務所に平日2時～4時3～4人態勢で月曜から金曜までの5チームを作ります。（ボランティアの中からこちらが選んだ方をお願いしています。）それぞれ1年は座っているだけでシステムに慣れてもらえ、2年目に入るとロコミで忙しくなるのが常です。暇な間は、小さな小物手芸などで、[デイサービスにいられている方々への各400個づつの敬老の日・クリスマスの日のプレゼント作りの]ボランティアを手伝って下さっています。

私はこんな活動と、又別にラディッシュ人形劇団で幼稚園やデイサービス廻りをして、喜んでもらう活動をしています。毎年11月12月は出演依頼が多くて、この文章もなかなか集中できずに困っていたので、先日ボランティア集めにお話しした内容でお茶を濁します。ゴメンなさい

樹形 ウォッチング

自然の中で生きている樹木を観察すると、それぞれの環境に適応した樹形となっていて、その逞しい生命力に感動させられます。

そして それを巧みに利用してきた 人々の知恵と、文化にも注目してみましょう。

5班 遊上 眞一

ビックリ ポン!の木



岩の上に生えている 高松 玉藻公園のマツ。
お賽銭だけで 20 年間生きてます。



水の中から生えている樹。本場のラクウショウか???
アメリカ ルイジアナで、バスの車窓から撮影。



防火水そうの看板の上に、ササの葉が・・・
どこから 生えているのかと、探してみました（雲雀丘）



枝から気根が下に垂れ、地面に着くと根付いて
ピンと張る ガジュマル（沖縄）



風衝地で強い風に当たるため、枝が片方だけにしか
生えないオオシラビソ（尾瀬 至仏山）



オレンジ色に剥けている幹。そして根も同様。保水力が
高く、触るとひんやり冷たいヒメジャラ（屋久島）

十三えれじー

4班 米村 倭文子

お住まいは?と聞かれて「十三」と答えると少し間があっていい所にお住まいですと言われる。「いい所」の意味は皆さんもよくご存知だ。夜の顔はともかく昼は普通の町である。ただ眩しかったネオン街も今はかがやきを失いつつある。とくに昨年の駅前的大火以来、まだ復旧していないお店が多い。それどころか人の流れは西中島南方あたりに移っている。

かつての男性の遊び場?だった

「十三ミュージック」はまた元の「木川劇場」に名を変えた。そして駅前にこっそりと止まっていた車は今は精一杯おしゃれした女性を劇場へと運んでいる。



そして観劇が終わればお気に入りの役者さんにおひねりを渡す。それを嬉しそうに腰の曲がったおばあちゃんが見ている。支配人である。

そう「木川劇場」の支配人はおばあちゃんなのだ。

いろんな人を包み込んでいる町。

ある日、駅を降りると辺りが騒然としている。何があったかと尋ねると「パチンコしてた男の顔が割れてなー」と気の毒そうに云う。とっさに私は血だらけの顔を想像したが、すぐにいわゆる『面が割れる』の『割れて』と分った。正体がばれて男が捕まった。顔が『割れる』そんな言葉を使える人がいる、そして殺人犯がなにげなくパチンコをしている町でもある。

私が住んでいる木川は十三でも古くからある地区で、現在は近隣のマンション建設が進み子育て世代が増えてにぎやかになってきているが昔の長屋も多い。そしてなぜかお米屋と銭湯が多い。昔のなごりであろうか。私がよく利用する銭湯も“十三橋浴場組合”の古い看板がかかっている。番台に座る人もお客さんもお年寄りばかりでたまに若い人がはいっているなあと思って声をかけると片言の日本語。いつもお湯があふれている御影石の大きな湯船は補修のあとが痛々しい。でも広いお風呂に入った後の爽快感がたまらない。この木川に住んで40年、たぶんここが終の棲家になるかもしれない。どうか老後の楽しみの一つになるまで銭湯はつぶれないでほしい。

葉っぱの教室

6班 水谷 夏子



トベラやヒイラギを使って節分のお面作り



カナメモチやクスノキの葉を使って5月の鯉のぼり

12月号俳句・川柳

風の子

装いを 解き舞い踊る 山の黄葉
落ち葉踏む 深呼吸して 樹を探す
散歩道 風が筆もち 駆け抜ける

1班 谷坂 修二

黄金の 紅葉枝より 舞い落ちる
ミソレ降り カラマツ凜と 骨になり
瀬早く 空も紅葉も 流れおり

自然と文化だより
皆様のご協力により27号が発行出来ました。
次号もお楽しみに! (広報委員会)